

○細川委員長 引き続きお疲れさまでございます。ただいまより小方地域まちづくり対策特別委員会を開会いたします。

引き続きではございますが、賀屋委員のほうからは欠席の届けが出ておりますので、報告しておきます。

まず、きょうの委員会ですが、前回の委員会におきまして、先進地の視察を実施して、さらに調査研究をしていくことに対する反対の御意見はありませんでしたが、どのような視点をもって視察を実施していくかについては、まだ整理や共有ができていないのではといった御意見をいただきました。

そこで今日は、委員会内で視察の狙いとか、成果目標を整理して共有したいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

何もないところからつくり上げるのも大変ですので、たたき台として別紙のとおり、視察の狙い、成果目標などの委員長案を作成しました。

また、これらを踏まえた先進地の候補地について、皆様からも御提案をいただいておりますので、表にいたしました。これらを元にして、次回の委員会において、視察先を決定していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ということで、表になってるほうをごらんになってください。

視察の狙いと成果目標ですが、小方新駅を中心としたまちづくり構想を考えるに当たり、どのような視点でまちづくりを進めていくのか。実際にまちづくり構想を策定している自治体や、駅周辺の開発を行っている自治体等を視察することで、構想策定のポイント、策定時の考え方、まちづくりの手法等を勉強してくる。

成果目標としては、今年度中に小方地域まちづくり基本構想が策定されると思いますが、その中に、委員会を通じて執行部に対して、主体的な意見を述べられるようにしていく。というあたりを成果目標としたいと思っております。

この視察の狙いと成果目標についていかがでしょうか。これでいけますでしょうか。

この中から、どうしようかというのを、皆さんに決めていただければと思います。

○山本委員 私の意見を述べさせてもらいたいんですが。

近々執行部のほうは、確か予算措置をして、小方のまちづくりについての業務委託をやっとるでしょ。あれは近々出てくるんじゃない。そういう話だと思うわね。9月か2月か。何百万かやったと思うが。業務委託でまちづくり構想を業者に業務委託しとるでしょ。あれは近々上がってくるんじゃないかい。私の認識不足。

○細川委員長 はい、ちょっと違うと思います。

○山本委員 問題は、小方のまちづくりの場合、エリアはどこまで設定するかというのが一つの考え方の大事な要素だろうと思うんですが、例えば西医療センターまでとか、川まで、それから山間部のほうは三ツ石、それから大竹側について言えば、総合市民会館まで。これが小方としてのまちづくりのエリアと考えるのか、その辺のことによって随分かわって

くる思うんで。

ただ、小方の新駅をつくるということだけを念頭に、小方の新駅の中心だけを切り取って考えるのか、その辺のことで随分、公共施設の配置にせよかわってくるし、これからのまちづくりの考え方の上では大きな違いが出てくると思うんですが。その基本的なエリアをどこまでを設定した上で考えるかというあたりから、やるといいんじゃないかと思うんですが。

委員長の提案で、視察については、私もすることには異議がないので。県として希望があればというので、小野田に勉強に行ってみたらどうかと思うんです。あとのところはやっぱり、駅を中心にしたいわゆる狭いエリアの中の考えのようなんですが、小野田はそうじゃなくて、いろんなまちづくりに取り組む上での視点を、大事な要素として取り入れた取り組みをしておるように思うんで。大竹のまちづくりについても、将来のことを考えた視点がいるんじゃないかと思うので、そういった意味で、勉強に行くのなら、山陽小野田市がどうじゃろうかという希望です。

○細川委員長 はい。ありがとうございます。

小方のまちづくり構想の事業に関しては、6月議会のときに一次募集が落選って言う言い方しているのかな、現在二次募集で応募してますというところまでの報告があったと思います。7月の終わりぐらいまでには二次募集の結果が出るのではないかと期待しているといった執行部のほうのお話でしたが、7月には決定しなかったようで、今度の全員協議会の開催通知がありましたが、あの中に入ってたっけ。はい。

そろそろ、ですから、交付決定がされていると思いますので、9月の議会の小方のまちづくり対策特別委員会の中では、交付決定の話とか、今後のスケジュールのことなどを、お話、報告してもらえないかと思っておりますので、その辺はちょっとお含みおきいただければと思います。

視察についてですが、山本委員のほうから、山陽小野田がどうかと挙がったんですが、ちょっと表の説明をする前にしっかりもう読んでいただいたようで、ここがいいといった御提案でしたが、一応候補として考えたのが、6カ所ほど考えました。日帰りできるところから、日帰りは難しいところまであるんですが、山口県は柳井市も山陽小野田市も、山口県のコンパクトなまちづくり構想のあたりに基づいて、計画をつくっているようでございます。

柳井のほうは10ヘクタールの工場跡地を中心に、まちづくりをしていくことを考えているということで、山陽小野田市に関しては、特に空き地ということよりも、区画整理とか公共施設の再編なども含めたまちづくりということで、進めているようです。

その下に下がりました、福岡県の新宮町、ここは土地区画整理事業を土地区画整理組合が進めておりまして、その中で新駅を設置しております。ここは福岡市のベッドタウンのようで、福岡市まで10キロぐらいの距離ですかね。ということもあって、ベッドタウンとして、すごく利用が多いということです。

次の兵庫県西宮市と、もう一つ、兵庫県の神戸市灘区。これは新駅の設置です。2件とも。新駅という意味では勉強になると思いますが、まちづくりの視点に対しては、ちょっ

と私もここに書きながら、いまひとつかなと思ひながら、一応候補としては出させてもらいました。

3点目が、岩手県の紫波町。ここはちょっと説明のほうに、10年以上放置されていた町有地の10.7haを公民連携の手法で整備してきたと。オガールプロジェクトとって、かなり全国でも有名な事業をやっているらしくて、年間80万人以上が訪れているとか、雇用もかなり創出しているといったようなことが書かれていました。

もしこの紫波町に行ってみようということであれば、かなり遠いので、さっき申し上げたように生活環境の常任のほうのあれとドッキングさせないと、ちょっと難しい距離になるかなと。日帰りであそこまで行って帰ってくるの、行きだけで何時間でしたっけ。新幹線で6時間。移動だけで6、7時間はかかりますので。ここ一点だけで行くというのはちょっともったいないと思います。

ということでね、この中で次までに、方法としては一つあって、一つは生活環境の先進地の視察に入れて、もう一つは近場で、山本さんから山陽小野田市という提案もありましたが、近場で日帰りで行けるぐらいのところにね、2カ所ぐらい行こうといった選択もできると。可能だと思いますので、ここそこを見に行ったらどうかというのを、次までに心を決めてきていただければと思います。

生活環境のほうを8月いっぱいとししましたので、これも資料を読んで、8月いっぱいではどうかというのを、生活環境のほうの視察と同時に出していただけますか。そのほうがいいでしょ、両方一緒に考えられて。と思うんですが、皆様いかがでしょうか。

資料もうちょっと状況見たいということであれば、まちづくり構想とかホームページからとってますので、事務局に置いておきますので、これらのほうも読みながら、どこに行くのが一番勉強になるのか、どこに行ったらいいかあたりをちょっと調査してみてください。その上で、8月いっばいに、ここそこがいいと思うということで、御提案をお願いいたします。よろしいでしょうか。

はい、日域委員。

○日域委員 それはそれでいいと思いますけどもね。ただ、小方まちづくりって言うことと言えば、例のふるさと創生でしたかね、なんかあの一回目落選して、二回目とりあえずオーケーだったみたいですが。あれも6月の議会でやりましたけど、委託するって言うてもですよ、何を委託するんっていうその基本的な、予算こだけですよ。この範囲にこんなものがほしいですと。具体的なことはわからんけども、素人としてこんなものがつくりたいんじゃけど、アイデア出してもらえませんかって言えば、委託できますね。そのことを言ってほしいんですけど、言わないじゃないですか。あっち側はね。

野球場の件についてもね、議会が思っていたものと多少違ってた経緯があって、やはり議会でものを考える以上は、一定のすり合わせというか、しながらやっていかないと、変なものができても困りますしね。

あれいつでしたかね、3月のときだったかな。当時の部長ですよ、大和部長。試案があるっていうから、私は見せてもらいました。なかなかのもんでしたよ。ただ、それはどういう話か知りませんが、もちろんひとり歩きしたら困るっていうのがあるかもしれない

ですけど、行政が持つてるアイデアを出してほしいわけですよ。

彼が何を言ったかという、この案は県の知事までは上がってないけども、あるところまでは伝わってますよ。ひとくさり知事のことをおっしゃって話やめましたけど。それには例えば、岩国大竹道路を今からつくりますと。大量のトンネル掘れば大量の土砂が出ますと。その捨て場だけでも大変なんですと。それを有効活用してこれしますと。さすがに土木屋さんですよ、説得力のあるアイデアでしたけど。そういうものがあるのであれば、それを踏まえてですよ、それであと現場の人間としてですよ、大竹市の市民として、議員としてですよ、これするんやったらこれもしたいとか、これするよりこれをしたとか、そういうことで意見を出せればおもしろいんですけども。余り執行部と関係ないところで、絵にかいたもちのようなことを考えてもね、おもしろくないなという気がします。

それとこの視察について言えば、視察がストレートに役に立ってということは余りないです。だから視察は無駄だっていう人もいますけど、自分はそうは思わない。そう考えたときに、今一番勉強になるのはこのオガールでしょうね。これはやっぱり歴史的なことですから。これ今、人が何万人来るんでしたかね、80万人以上が訪れるようになったって書いてありますが、5年したら40万になってね、10年したら10万人になるんだらうと思えますけども、今のときを見ておくこと自体がマイナスではない。絶対そう思います。今、物すごいことやっていますから。東北はね。私は残念ながら行ったことはありませんけども。そういう意味で、行ってみて具体的な成果があるかないかはわかりませんが、目にしておいて損はないだらうという気がします。

あとのことはそれぞれありますけど、これはもっと大竹の小方のことについて、例えば中心にある土地が、大竹市が売って借金の返済するための土地だったりするとかですよ、駅があるかないか、つくるといいながらそう簡単に二、三年でできる可能性はゼロですから。そういうものを相手にまちづくりをするっていうことは、難しいところもありますからね。

そういう大竹の事情というものがあ程度固まってないと、具体的にいって、やりとりもしづらいところもありますから。その辺はこの近所の具体的なまちづくりについて聞いても、それがストレートに大竹の小方に当てはまるとは思にくいんで、今どっか見に行くんだったら、歴史的プロジェクトのほうがいいかなと私は思います。

以上です。

○細川委員長 ありがとうございます。

前半のほうの交付金での小方のまちづくりの構想に関しては、9月の議会の特別委員会の中で、一定程度の報告はいただけると思います。そんなふうに申し込んでありますので、どういう形で委託をするのかとかね、あのあたりの話もあるんじゃないかと思えますので、そのときに報告の中から聞きたいことや意見なんかを言える機会を持てればと思っておりますので、御理解お願いいたします。

それでは、8月いっぱい、行先に関しては御提案のほうをよろしくお願いいたします。山本さん済みません、お留守でしたので。8月いっぱい、生活環境のほうの視察の行先の希望と合わせて、これもこの中から。今もう小野田市がいいとおっしゃいましたので、

それでよろしかったら結構ですし、ほかにもこの中でここもどうかというのがあれば、8月中に御提案のほうよろしく願いいたします。

以上でよろしいでしょうか。

ないようですので、以上で小方地域まちづくり対策特別委員会を終わります。お疲れさまでした。

12時00分 閉会